



No.121

2003-3-15

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

第19回通常総会とシンポジウムの開催のお知らせ

第19回通常総会とシンポジウムを以下のように開催致します。予めご予定ください。

記

1. 日時 2003年6月7日(土)
 - 10:00~12:00: シンポジウム(その1)(詳細は、p.2をご覧ください)
 - 12:00~13:00: 総会
総会終了後: 理事会・評議員会
 - 14:00~16:00: シンポジウム(その2)(詳細は、p.2をご覧ください)
2. 会場 東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール
(東京都目黒区大岡山2-12-1)
東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分
3. 総会の議事
 - 1) 第1号議案 2002年度(2002.4.1-2003.3.31)事業報告および収支決算承認の件
 - 2) 第2号議案 2003年度(2003.4.1-2004.3.31)事業計画案および予算案承認の件
 - 3) 第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件

尚、第19回全国大会は、10月11日(土)、12(日)の2日間、岩手県立大学で開催します。

本号目次

| | |
|--------------------------|---------------------------|
| 第19回通常総会と | 春の特別企画ワークショップ |
| シンポジウム開催のお知らせ ----- 1 | 「学習環境デザインの方法と評価」 ----- 13 |
| 6月シンポジウムの開催について ----- 2 | 冬の合宿研究会と夏の合宿の予告 ----- 14 |
| 2003年度会費納入のお願い ----- 3 | 平成14年論文投稿件数と採択率 ----- 18 |
| 研究会開催案内・研究会の発表募集 ----- 4 | 第9期第14回理事会議事録 ----- 19 |
| 第19回全国大会のお知らせ ----- 6 | 新入会員/学会日誌等 ----- 20 |

6月シンポジウムの開催について

日本教育工学会2003年度6月のシンポジウムを以下のように、総会の前後に行います。

午前中は主として学会員を対象として、「教育工学研究と論文のまとめ方」と題して、教育工学が扱う研究内容や実践研究論文のまとめ方を中心に、査読者から見た論文作成のポイントなど、学会員の皆さんの日頃の研究成果を学会誌に量的にも質的にも反映させ、教育工学の知見を共有化する方策を議論したいと思います。

また、午後は、一般の方々の参加を得て、教育改革が叫ばれる中で、小学校から中学校、高等学校、大学そして企業において試みられ始めている「新しい学力を意図した学習デザインの取り組み」について考えてみたいと思います。学力観、制度やカリキュラムの問題など教育改善の動きの中で生じる様々な課題とその解決に向けてのアイデアを具体的な取り組み事例を元に皆様と考えたいと思います。

日 時 2003年6月7日(土) 10:00～16:00

会 場 東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール(大岡山)
(東京都目黒区大岡山2-12-1)
東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分

プログラム

午前の部：午前10時～12時 シンポジウム1 (教育工学会員向け)
「教育工学研究と論文のまとめ方」

午後の部：午後2時～4時 シンポジウム2 (会員及び一般参加者向け)
「新しい学力を意図した学習デザインの取り組み」
小学校から高校、大学・企業における教育改革の取り組み

なお詳しい案内は、次号のニューズレター及び学会ホームページにて行います。多数のご参加を期待しています。

2003年度会費の納入のお願い

年会費は原則として前払いとなっております。同封の郵便振り込み用紙により、2003年度（2003年4月1日～2004年3月31日）の会費をご送金下さるようお願い致します。年会費の年額は右記のとおりです。

| | | | |
|------|-----------|-----|--------|
| 正会員 | 9,000円 | 入会金 | |
| 准会員 | 5,500円 | | 1,000円 |
| 学生会員 | 5,500円 | | |
| 特殊会員 | 10,000円 | | |
| 維持会員 | 50,000円/口 | | |

会費請求額は、ラベル紙の右下に示した金額となります。ただし、会員種別が変更になった場合は上記の年会費を参照の上、ご送金下さい。

会員種別と受けるサービス

| 会員種別 | 年会費 | 論文誌 | ショートレター 特集号 | 英文誌 | J E T |
|------|---------|-----|----------------|-----|-------|
| 正会員 | 9,000円 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 准会員 | 5,500円 | | 1 | | 1 |
| 学生会員 | 5,500円 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 特殊会員 | 10,000円 | 1 | | 1 | 1 |
| 維持会員 | 50,000円 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 名誉会員 | 無料 | 1 | 1 | 1 | 1 |

(注)

論文誌：和文年4回発行
 ショートレター特集号：年1回発行
 英文誌：英文年1回発行
 J E T：ニュースレター年6回発行

学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で、**研究生は該当しません。**
- 学生会員の所属機関は、**必ず大学名**となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、**資格条件**（大学名、学部名/研究科名、指導教官名、卒業見込/修了見込の年月）を必ず連絡してください。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費5,500円を納入された方は、取りあえず准会員に変更させていただいております。

2003年度研究会報告集の予約購読（年額3,500円）について

本学会では、研究会を年6回開催しており、研究報告集を発行しております。この研究報告集は、事前に代金3,500円（6冊分）を送金された会員に配布しています。

研究会当日会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後、郵送されます。

是非、事前に3,500円をご送金下さい。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集をまとめて郵送します。

大会論文集の購入について

昨年11月に長岡技術科学大学で開催されました第18回全国大会の論文集に残部があります。ご希望の方は郵便振り込み用紙にご記入の上、以下の金額をご送金ください。入金を確認次第お送りします。

*本学会では特にご要望が無い場合、請求書・領収証等を発行いたしておりませんので、必要な方はその旨ご記入ください。

5,000円（論文集代4,500円、送料500円）

研究会
2002

研究会の開催

テーマ 情報教育における教員研修と授業改革

日 時：2003年3月29日(土)

会 場：茨城大学教育学部(水戸市) 第1会議室(教育学部A棟)

開催担当：本田敏明(茨城大学教育学部附属教育実践総合センター)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

午前の部(9:00~12:10)

- (1) 授業設計訓練システムと教授活動ゲームの統合化
松田稔樹・野田尚志・石井奈津子(東京工業大学)
- (2) 教授活動ゲームによる「情報化に対応した授業」設計への評価と助言
石井奈津子・松田稔樹(東京工業大学)
- (3) 設計-実施-評価-改善の一連のプロセスを支援する授業訓練システムの開発
畠中亮・松田稔樹(東京工業大学)
- (4) 評価に重点を置いた普通教科「情報」の授業実施支援システム
築地聡子(東京工業大学), 久東光代(日本女子大学), 松田稔樹(東京工業大学)
- (5) ID学習者のためのIDポータルサイト構築
岡本恭介・鈴木克明(岩手県立大学)
- (6) 中学生のインターネット使用時の学習過程(その2)
小岩寿之(武蔵野市立第五中学校), 前田恵三(ツールハウス), 中野靖夫(上越教育大学)
- (7) 町の調べ学習を支援する教材の作成と活用
小島智美(上越教育大学), 太知誠(高岡市立太田小学校), 中野靖夫(上越教育大学)

午後の部(13:00~18:10)

- (8) 総合的な学習評価支援システムの開発
小松麻美, 宮地功(岡山理科大学)
- (9) 中学校における教員研修の試み - 情報活用能力を育成する研修プログラム -
林憲昭(笠間東中学校), 小川亮(富山大学)
- (10) 教育学部の教育は情報活用能力を育成するか?
鎌田恵子(宮崎中学校), 小川亮(富山大学)
- (11) 「情動的な見方・考え方」の育成に着目した普通教科「情報」の授業モデルの開発と評価
江本理恵・松田稔樹(東京工業大学)
- (12) レポート作成課題を通じて「情動的な見方・考え方」を育成するための指導法と教材の開発
久東光代(日本女子大学), 築地聡子・松田稔樹(東京工業大学)
- (13) 工業高校における「工業倫理」教育の実践と評価
遠藤信一(東京工業大学附属工業高校), 松田稔樹(東京工業大学)
- (14) 道德的規範知識・情報技術の知識・合理的判断の知識による情報モラル判断学習のための道德規範尺度の作成
玉田和恵(東京経営短期大学), 遠藤信一(東京工業大学附属工業高校), 松田稔樹(東京工業大学)
- (15) シミュレーションを用いた大量調理用献立作成演習の授業設計と評価
松永公廣(摂南大学), 深華智恵美・森田薫(園田学園女子大学), 森永理恵子・西端津子・前田孝憲・菅井朋雄(大阪大学)
- (16) 数式処理ソフトの教育利用の現状(2)
藤井幸一(高知工業高等専門学校)
- (17) 玉川大学における教員研修の取り組み
切田節子(玉川大学)
- (18) e-Learning環境での協調学習支援のためのデジタルコンテンツの開発・利用
二宮利江・本田敏明(茨城大学)

閉会の挨拶(18:15) 岡本敏雄 研究会委員長

会 場：茨城大学教育学部(水戸キャンパス) 第1会議室(教育学部A棟) 〒310-8512 水戸市文京2-1-1

会場連絡先(本田敏明(honda@mx.ibaraki.ac.jp)) Tel. 029-228-8325 Fax. 029-228-8328

案内図：<http://www.ibaraki.ac.jp/html/access/mito.html>

アクセス方法：JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」

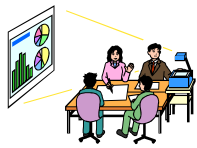
乗車, 「茨大前」で下車。バス乗車時間は約30分。

茨城交通バスのページ：<http://www.ibako.co.jp/>

懇親会：研究会終了後に懇親会を計画しています。多くの方々の参加をお待ちしております。参加される方は会場担当の本田先生(honda@mx.ibaraki.ac.jp)までご連絡下さい。

研究会の発表募集

社会的構成主義指向の教育



5月は長崎で!!

社会的構成主義指向の教育

日時：2003年 5月31日(土)

会場：長崎大学教育学部(長崎市)

開催担当：大作 勝(長崎大学 アドミッションセンター)

申込締切：2003年 4月11日(金)

原稿提出：2003年 5月 2日(金) PDF形式で電子的に提出もできます。

募集内容：「社会的構成主義指向の教育」というタイトルが今回の研究会の主題です。このところ「教育」という文字がマスメディアに登場しない日はないくらいに、この事については多方面・広角度からの議論がなされています。さて、本研究会では標記テーマと「教育学」ないしは「情報教育」がどのように関係してくるのか、しかしこれからの「教育学」は何を目指すのか、「社会構成主義指向」はそのキーワードになるのか等々について、この分野での研究者による理論研究のみならず教育現場実践に基づいた積極的な提案ほかを募集いたします。また、教育学一般の発表もお待ちしておりますので、奮って御応募ください。また、今回の研究会では標記テーマに関する特別講演とパネル討論会を予定しております。

応募方法：研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」(<http://www.nime.ac.jp/EduTech/>)よりお申し込みください。

申し込み締切：2003年4月11日(金)です。締切後、申し込まれた方宛に折り返し発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

原稿提出期限：2003年5月2日(金)必着(厳守!)でお願いいたします。執筆要項に記載された宛先に郵送してください。なお、PDF形式(サイズは1Mバイト未満)での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、学会本部事務局(jet-office@japet.or.jp)です。電子メールに添付して送ってください。

研究会の報告



1月25日(土)に和歌山県立図書館で「教育工学的アプローチによる教科教育の改革」をテーマに研究会が開催されました。申込み、原稿提出が年末年始の忙しい時期であったにもかかわらず13件の発表がありました。内容は、幼小中養護学校や高大連携による実践、教育センターによる取り組み、大学における授業改善等幅広く、教材開発、授業設計、評価等の多岐に渡る視点から発表が行われました。和歌山での研究会開催は初めてということもあり、地元の発表が6件、40

名の参加者のうち約半数が県内のからで、学校関係者の方が多数参加してくださいました。年6回各地で開催される研究会の意義は多々あると思いますが、全国各地の方々が身近に教育学の研究に関わっていただく良い機会であり、今回もその意味で大変有意義な研究会であったと考えています。

1月研究会開催担当：野中陽一(和歌山大学教育学部)

研究会の今後の予定

| | | |
|---------|-----------------------------------|---------|
| 7月 | 『学力低下と授業改善』 | 滋賀大学() |
| 9月 | 『情報教育と評価』(教育測定・評価の理論・方法論も含む) | 鳥取大学() |
| 11月 | 『地域コミュニティの教育力』 | 東北地方() |
| 2004年1月 | 『協調学習とe-Pedagogy』 | 電気通信大学 |
| 2004年3月 | 『教師の資質開発(教育方法、運営能力、責任)』 | 岐阜大学() |
| 2004年5月 | 『総合的な学習の時間と評価』(教育測定・評価の理論・方法論も含む) | 兵庫県内() |

2003年度の研究会の予定が決まりました(は依頼中または締切中です)。会場では、発表者との懇話はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まり、さまざまな方と意見交換する場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただきたいと思っております。

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計500ページほどになります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望・魅力的な研究会テーマの提案・研究会での企画などお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

(研究会全般、研究会Web Page、研究会発表の申込、変更等、原稿執筆)に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

(年間購読、原稿提出)に関するお問い合わせ

学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

日本教育工学会 第19回全国大会のお知らせ

(第1報)

日本教育工学会第19回全国大会を、下記のように岩手県立大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また研究発表につきましても、奮ってご応募ください。なお、早めにご準備いただくために、課題研究テーマ、一般研究テーマ及び発表申し込み手続きをこのニューズレターでお知らせしますが、研究発表申し込み時に必要な書式や、原稿の書式等については、次号のニューズレターに掲載します。

1. 開催期日・会場

期日：2003年10月11日(土)～12日(日)(2日間)

会場：岩手県立大学

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

TEL 019-694-2000 FAX 019-694-2001

<http://www.iwate-pu.ac.jp/>

2. 大会日程

| 第1日 10月11日(土) | 第2日 10月12日(日) |
|----------------------|---------------------|
| 9:00～9:30 受付 | 8:30～9:00 受付 |
| 9:30～12:00 一般研究発表1 | 9:00～12:00 一般研究発表3 |
| 12:00～13:30 昼食及び展示見学 | 12:00～13:00 昼食 |
| 13:30～14:00 全体会 | 13:00～15:30 課題研究発表 |
| 14:00～16:00 シンポジウム1 | 15:45～17:45 シンポジウム2 |
| 16:15～18:15 一般研究発表2 | |
| 18:30～20:30 懇親会(大学内) | |

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

シンポジウム1

岩手県立大学・西澤潤一学長による基調講演とディスカッションを行います。

このシンポジウムは非会員の方にも公開されます。

シンポジウム2

1) 教育工学の研究方法論を探る

2) 未定

シンポジウムの詳細は次号でお知らせします。

(2) 課題研究

以下のように8件のテーマが設定されています。

(K-1) 高等教育における教育方法の改善と評価

コーディネータ：澤本和子(日本女子大) 東原義訓(信州大)

文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」事業の開始に象徴されるように、大学を代表とする高等教育における質の充実は、21世紀を向かえた日本にとって緊急の課題となってきた。

教育課程の工夫改善、教育方法の工夫改善、国際交流、学生サービス、社会人教育など、様々な局面での取り組みに対し、教育工学はその課題の解決に大いに貢献することが期待できる。すでに、ファカルティー・ディベロップメント（FD）として、マルチメディアの有効活用、学習コミュニティの形成、学習評価支援システムの活用、FD支援システムの活用などの試みが見られる。

本課題研究では、高等教育の改善に資する種々の取組のうち、教育方法の改善や評価などに関する特色ある優れたものを紹介いただき、教育工学が如何に貢献しているか、また、新たな教育工学としての課題は何かなどを探る。

（K - 2）”確かな学力”を保証する授業研究

コーディネータ：岡部昌樹（金沢星稜大）、本間明信（宮城教育大）

コンピュータやインターネットなどの新しいメディアの活用研究やカリキュラム開発研究と日常の授業実践を有機的に結びつける授業研究の重要性が叫ばれている。さらに、これまでの授業研究の方向性や進め方について、量的手法や質的手法を問わず再考の重要性も指摘されている。

”生きる力”を全面に打ち出した学習指導要領が完全実施される中で、更なる教育改革の重要なポイントとして、”確かな学力”をどう保証していくかが、学校の内外から問われている。このような状況下において、今一度、授業研究の中核に、授業設計と評価規準、評価活動との連動の在り方を据え、学習内容や活動の組織化、学習形態を含む学習環境のデザインについて、幅広く知見を共有したい。

キーコンセプトである、”少人数授業・習熟度別指導”、”学習者理解”、”基礎・基本の徹底”、”発展学習”、”学習意欲の喚起”、”学びの機会の充実”等に対して、教育工学が如何に貢献すべきかについて知見を共有したい。

（K - 3）教員養成・教師教育における情報技術の利用

コーディネータ：浦野 弘（秋田大）、大河原 清（岩手大）

この課題研究は、前回好評だった課題研究「教員養成・教師教育における情報技術の利用」を継承するものである。

例えば、教員養成段階でのWebサイト利用の指導案の提示や相互利用、採用段階での教員採用試験対策での利用、大学における現職教員の研修段階でのWebサイト利用が試行されている。ここでは、学習者相互の意見を交換し表明することを通しての協調学習が実現している。また教員の10年研修の実施に向けて、大学と教育委員会の連携が深まり、遠隔地からの現職教員の学習を支援するのにWebサイト利用の協調学習は可能性が高いものと思われる。

以上のような教員の養成、採用、研修等の段階におけるWebサイト利用に限らず、教員養成・教師教育における情報技術の利用について、考え方やアイデア提案を含めての多くの先生方の研究発表を期待している。

（K - 4）学習コンテンツ流通・再利用を促進する技術と社会的枠組

コーディネータ：大久保昇（内田洋行）、山田 恒夫（メディア教育開発センター）

学校でも家庭でも、マルチメディアパソコン、高速広帯域インターネットなど、ICTをめぐる環境は急速に整備されつつある。現在、利用拡大の主たる律速要因の1つになっているのが、高品質学習デジタルコンテンツの蓄積・供給である。

ニーズの拡大に高品質コンテンツの供給が必ずしも対応できていない現状や循環型社会に応じ資源を効率的に利用すべきだとの社会的要請を受けて、学習コンテンツ研究の分野では今、学習コンテンツの共有や再利用が注目を集めている。そして国内外で、学習オブジェクトの標準化や品質保証、学習ポータル・教材流通・再利用コンソーシアムの設立が進められている。

本セッションでは、初等中等教育、高等教育・生涯学習の分野における、XML、メタデータ、SCORM など、学習コンテンツおよびその参考情報の標準化・品質保証に関する技術・ノウハウ・制度、こうした動きを推進する国内外コンソーシアムの連携方策、教材開発流通における営利・非営利セクターの分業、著作権教育をはじめとする教材開発のための教育・普及活動などについて、数件の発表を公募する。

(K - 5) e ラーニングにおけるデータ/テキスト・マイニング

コーディネータ：植野真臣（長岡技術科学大） 佐々木整（拓殖大）

近年、WBT を初めとする e ラーニング環境が現実化され、さまざまな場面で活用されている。

このような e ラーニング学習形態の特徴として、学習者の閲覧記録や操作ログ、対話ログ、反応結果、所要時間などの膨大なデータの蓄積と活用が考えられる。しかし、現状では、どのようなデータをどのような形式で蓄積するか、また、それとともにそれらのデータをどのように教育に有効活用するかについて十分に研究されているとはいえず、それは早急に研究すべき課題であると考えられる。以上の文脈より、本課題研究では、e ラーニングにおいて得られるデータの処理に関して、その獲得方法、データベース構造、新しいデータの処理手法について議論する。

(K - 6) 協調学習の分析・デザイン・実践・評価の技術

コーディネータ：矢野米雄（徳島大） 室田真男（東京工業大）

協調学習は様々な社会的な文脈（学校教育・企業教育・生涯教育など）の中で様々な目的のもとで行われている。また、それを支える教育学の技術には既成の協調学習をよりよく支えることを目指すものもあれば、新たな学習形態を生もうという意欲的な試みもある。しかしながら、文脈・目的・技術の関係を明確にし、協調学習に関する工学的知見の相互関係を理解したうえで、学術的蓄積を目指した議論を深めることができていないのが現状である。本研究課題では、様々な文脈・目的のもとで、協調学習に関する理論研究・システム研究・実践研究を進めている研究者に最新の研究成果をお持ち寄りいただいたうえで、協調学習技術の蓄積を目指すために教育学として何が重要かという点についてフロアを交えた議論に特に時間を割きたいと考えている。なお、本課題では「技術」という言葉で「協調学習の分析・デザイン・実践・評価のための工学的な手法」を指すと考えており、様々な立場からの発表を歓迎する。

(K - 7) インターネットによる学習指導

コーディネータ：石川 賢（宇都宮大） 原 克彦（園田学園女子大）

情報通信技術の急速な発展とともに、インターネットの学校教育への普及やネットワークの高速化などの充実が図られつつある。また、初等中等教育では新学習指導要領が開始となり、インターネットを活用した学習指導が展開されつつある。このため、さらなる学習指導支援システムの開発・改善が課題となっている。

そこで本課題研究では、インターネットを活用した学習指導の展開やその課題について検討する。課題としては「総合的な学習の時間」をはじめ各教科等の様々な時間でのコンピュータや情報通信ネットワークの活用、Web ベース学習、e-learning、学習指導用コンテンツ開発、テレビ会議システム等の活用など、広範なテーマでの実践的な報告を期待する。技術・家庭科「情報とコンピュータ」や高等学校教科「情報」における活用についても歓迎する。

(K - 8) 生涯学習社会における情報教育

コーディネータ：成田雅博（山梨大） 村瀬康一郎（岐阜大）

学習指導要領の改訂をうけ、総合的な学習の時間や各教科の時間の中で情報教育が広く実践されるようになってきた。とりわけ、小学校総合的な学習の時間や、中学校技術家庭科の「情報とコンピュータ」、高等学校普通教科情報などにおける実践の蓄積が多くなってきているが、生涯学習社会の中、学校教育段階においてどのように情報教育をすすめたらよいか、具体的な検討が求められている。

本課題研究においては、情報教育のモデルとなりうる授業の実践報告や、実践と関係させながら情報教育の目標・内容・方法・評価等の理論に関する研究報告を公募し、議論を深めていきたい。

またこれに関連して、情報教育の実践をすすめる教師の力量形成をはかる教員養成カリキュラム・現職教員研修プログラムや、情報環境整備に関わる報告も歓迎する。

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述してください。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育（情報活用能力の育成等）(3)情報教育（教科指導等）(4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)障害児・者教育 (7)社会人教育・生涯学習 (8)企業内教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発 (14)学習コンテンツ開発 (15)Web ベース学習・訓練システム (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践 (18)教育メディア (19)遠隔教育・遠隔学習（システム）(20)遠隔教育・遠隔学習（運用・評価）(21)協調学習と協調作業 (22)その他

(4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは教育工学研究の国際的流れに対する本学会の寄与であるとともに、国際的な場において研究発表ならびに討論を有意義なものとするための、とくに若い研究者に対する訓練の場でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたい。なお、発表は一般研究発表1～3のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

(5) 自主シンポジウム

会員の自主的な企画・運営によるシンポジウムです。大会企画委員会が本学会にふさわしいテーマであり、運営的にも可能であると認めた場合に開催が許可されます。なお、テーマと趣旨はプログラムに掲載されますが、予稿は論文集には掲載されません。開催希望者は、代表者の氏名・所属・連絡先、シンポジウムのテーマ、300～400字の開催要旨、プログラムの概要をA4サイズで1ページにまとめたものを（書式は任意）7月4日（金）必着で大会企画委員会に郵送、またはWordかPDFのファイル形式で、jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jpに送付してください。

発表時間について

発表時間は以下の予定です。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

4. 大会までのスケジュール

7月 4日(金) 課題研究発表申込書・課題研究プロポーザル(2ページ)
及び自主シンポジウム企画書提出締切(必着)

7月 25日(金) 課題研究・自主シンポジウム採否決定通知

8月 8日(金) 課題研究発表原稿(4ページ)提出締切(必着)

一般研究発表/English Session 申込書・原稿(2ページ)提出締切(必着)

9月 19日(金) 参加費事前送金期限(それ以降は送金しない)

5. 大会への発表申し込み

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・English Session]に、それぞれ1件(1人合計最大3件)を発表者として申し込むことができます。自主シンポジウムにはその制限は適用されません。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込みはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも申し込みをしている場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階: 発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザル(A4版2ページ)と申込書(次号に掲載)を提出します。

締め切り: 7月4日(金)

提出先: E-mailの場合: jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jp

(発表プロポーザルはPDFあるいはWordの添付ファイルとしてください)

郵送の場合(書留にしない): 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。
- ・発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月25日(金)までに申込者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4 サイズで 4 ページ。原稿用紙は送付しません。原稿見本（次号に掲載）または大会ホームページに示される内容に従って作成してください。
- ・ 最終原稿（紙）のオリジナルとコピー1部、ならびに大会原稿提出票（次号に掲載）に記入したものを提出してください。
- ・ 郵送または宅配便にて、8月8日（金）必着で下記の宛先までお送りください。
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F
日本教育工学会事務局 宛（プロポーザル提出先と異なります）
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及び English Session の発表申し込み方法

- ・ 8月8日（金）までに最終原稿を提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・ 一般研究と English Session の原稿は共に、A4 サイズで 2 ページです。1 ページのものは受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。原稿見本（次号に掲載）または大会ホームページに示される内容に従って作成してください。
- ・ 最終原稿（紙）のオリジナルとコピー1部、ならびに大会原稿提出票（次号に掲載）に記入したものを提出してください。
- ・ 郵送または宅配便にて、8月8日（金）必着で下記の宛先までお送りください。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル2F

日本教育工学会事務局 宛

- ・ 発表日時の希望には応じられません。

6. 会場の設備について

すべての会場で、プロジェクタ、OHC、ビデオ（SVHS）、インターネットに接続されたデスクトップパソコン（Windows）、インターネット接続のイーサネットケーブルを使用することができます。OHPはOHCで投影していただくことになります。

発表会場のデスクトップパソコンへのプレゼンテーション・ファイルのインプリメンテーションは、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、参加者がインターネットを利用できるように、無線LANアクセスポイントとハブを休憩室に用意しますのでご活用ください。

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 鈴木克明研究室内

日本教育工学会大会実行委員会 宛

電子メールでの問い合わせ先：ksuzuki@soft.iwate-pu.ac.jp

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、次号に同封される郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、9月19日(金)までに参加費をお振込みください。振込みによって受付とさせていただきます。9月19日(金)以降は、振込みをなさらないで下さい。当日会場にて、当日参加を受け付けます。

| | | | | |
|-------|----|---------------|-----------------|------------|
| 大会参加費 | 事前 | 3,500円(一般) | 2,000円(本学会学生会員) | 9月19日(金)まで |
| | 当日 | 4,000円(一般) | 2,500円(本学会学生会員) | |
| 論文集代 | | 4,500円 | | |
| 論文集送料 | | 500円(参加しない場合) | | |
| 懇親会費 | | 5,000円 | | |

9. 宿泊案内について

学会開催日は、連休と重なっておりますので、混雑が予想されます。近畿日本ツーリスト盛岡支店をご利用いただくなど(盛岡市内のホテル案内は次号と一緒に送付) 宿泊・交通機関のご準備を早めに行われますことをお勧めします。なお、大会会場の岩手県立大学から車で20分ほどの山間に、休暇村岩手網張温泉があります。電話での受付は宿泊の6ヶ月前(前泊の場合、4/10)からです。

休暇村岩手網張温泉 <http://www.qkamura.or.jp/iwate/>
予約電話：019-693-2211(宿泊の6ヶ月前から受付)
東北自動車道盛岡ICより約30km、同滝沢ICより約20km

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：

jet2003@mr.hum.titech.ac.jp

大会企画委員会 委員長：園屋 高志(鹿児島大)

副委員長：鈴木 克明(岩手県立大)

委員：

赤堀 侃司(東京工業大) 石川 賢(宇都宮大) 植野 真臣(長岡技術科学大)

浦野 弘(秋田大) 大河原 清(岩手大) 大久保 昇(内田洋行)

岡部 昌樹(金沢星稜大) 佐々木 整(拓殖大) 澤本 和子(日本女子大)

成田 雅博(山梨大) 南部 昌敏(上越教育大) 原 克彦(園田学園女子大)

東原 義訓(信州大) 本間 明信(宮城教育大) 村瀬 康一郎(岐阜大)

室田 真男(東京工業大) 矢野 米雄(徳島大)

山田 恒夫(メディア教育開発センター) 吉田 貞介(金沢学院大)

企画委員会 春の特別企画 —ワークショップ：学習環境デザインの方法と評価—

ミュージアムなどのインフォーマルな学びの場で、ワークショップと呼ばれる参加活動型の学びが注目されています。このようなワークショップをどのように企画し、実施していけばよいのか。今回、企画委員会では、春の特別企画として、ワークショップをどうデザインするかをテーマに、ワークショップのワークショップ「学習環境デザインと評価の方法を探る研修会」を企画しました。会場は、関西文化学術研究都市に2001年4月オープンした子どものためのミュージアム、CAMP(Children's Art Museum and Park)です。小学生を対象にしたCricket's Workshopに参加して、その経験をリフレクションし、ワークショップという学びの場のデザインを考えていきます。Cricket's WorkshopはMIT Media Labで開発されたプログラム可能なブロックを使って“動くオブジェ”をつくるワークショップです。当日は、この研究領域の先端の実践をしている研究・実践グループがワークショップをナビゲイトしてくれます。今後の教育におけるワークショップの可能性についてともに考えたいと思います。興味関心のある方々の多数の参加を期待しています(担当 上田信行：甲南女子大学)。

日時：2003年3月15日(土) 12:00 ~ 16日(日) 12:00

会場：CAMP (CSK 大川センター) 〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台3-9

TEL 0774-98-1130, FAX 0774-98-1120

<http://www.camp-k.com>

●対象：ワークショップ・デザインの方法や評価に興味のある人

(大学生、大学院生大歓迎、学会員以外の方も参加できます)

募集人数：30名 (WSのため、制限させていただきます、定員になり次第締切ります)

宿泊場所：けいはんなプラザホテル (〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1-7)

TEL 0774-95-0101, FAX 0774-95-0102

<http://hotel.keihanna-plaza.co.jp/j/pages/>

参加費： 一般 12,000円(資料代、宿泊ならびに懇親会費を含む)

学生 9,700円

申し込み方法：下記のアドレスにe-mailで、氏名、住所、所属、連絡先をお知らせください。

森秀樹(CAMP) "Hideki Mori" hideki@camp-k.com

●日程：スケジュール(予定)

3月15日(土)

12:00~13:00 受付+オリエンテーション+CAMP見学

13:00~16:30 Cricket's Workshop

小学生対象のワークショップを見学しながら、同時進行で春合宿参加の先生方もワークショップを体験していただきます。

16:30~18:00 リフレクション

— ホテルチェックイン・夕食 —

20:30~23:00 ナイトセッション：ワークショップのデザインと評価

1) ワークショップ・デザイン入門 2) 評価のデザイン

3) 空間のデザイン 4) メディア(道具)のデザイン

5) 運営組織のデザイン

3月16日(日)

9:00~11:00 前日セッションの報告会とディスカッション

11:00~11:45 総括講演

11:45~12:00 合宿全体のリフレクション

12:00 解散

日本教育工学会「2002 冬の合宿研究会」実施報告

122名の参加者が総合的な学習の評価について熱心に討論

今回の冬の合宿は、福島県磐梯熱海にある清陵山倶楽部にて、122名の参加者を得て「総合的な学習の時間の実践と評価」をテーマに開催された。今年は、東北地域で教育と地域の情報化について先進的な取り組みを進めているS P E Rの全面的な協力を得て、すべての行事を快適かつ円滑に進めることができた。参加者の所属別の内訳は、大学関係が46名（院生、学生を含む）と一番多く、続いて小中学校教員33名、教育行政・センター関係者15名、高等学校・養護学校15名、企業13名であった。地域別では、東北地方が50名と最も多くかった。内容的にも中身の濃いものとなり、「1年目の総合的な学習の時間の評価」について夜遅くまで熱心な討論が行われた。この紙面では、その一部のみを紹介し、詳細な報告については、次のURLにて行う予定であるので、後日参照されたい。

<http://www.sonoda-u.ac.jp/jet/2002winter/>

1日目（2月14日）

ワークショップ（午後8時～10時）

話題提供者から出されたテーマを元に、参加者で実践などの意義、問題点の指摘や改善策について深め、話題提供者に返すスタイルで、「カリキュラム開発」「実践に必要な教師の能力」「総合的な学習と認知」のテーマで進められた。

静岡大学の堀田龍也先生がコメンテータを務める「カリキュラム開発」では、話題提供として富田元久先生（福島市福島第四小学校）からカリキュラム開発の必修要素として「発問と指示」に関する提案がされた。また、現在進められている授業の「レシピ」に関する考え方についても参加者から説明があり、これらに対してさまざまな討論が行われた。インターネットの進展とともに、Web上で利用できる学習用のコンテンツが充実してくるので、これらを利用した授業での発問などのあり方について、コメンテータの堀田先生が具体的な事例を示しながらまとめた。

「実践に必要な教師の能力」では、兵庫県人と自然の博物館で進められてきた総合的な学習の時間のカリキュラムについて岸田隆博先生から報告があった。そして、博物館と学校が連携して学習を展開していく上で、博物館側に求められる姿勢と、学校の教師に求められる子どもの実態を把握する力や教師自身の問題解決能力の必要性などの提案があった。これに対し、会場からの意見をコメンテータである富山大学の小川亮先生がホワイトボードに意見を図式化しながらまとめる（Webbing）というスタイルで進められた。





郡山市立第三小学校の新田展弘先生が話題提供者として登場した「総合的な学習の時間とメタ認知」の会場は、もっとも遅くまでワークショップが行われ、コメンテータの美馬のゆり先生（はこだて未来大）が最後まで丁寧に会場からの質問に対応された。特に、近年の学習のとらえ方や転換する学習観などについての美馬先生からの説明に、他の会場でのワ

ークショップを終えた人が加わり、意見交換が活発に行われた。

すべてのワークショップが終了した午後11時以降は、参加者の大半が車座になり、小学校から大学までの教員、教育委員会や教育センターなどの指導主事、教育関連会社の方などがそれぞれの思いで意見交換を行い、全員が就寝したのは午前3時ごろであった。

2日目（2月15日）

基調講演 永野和男（聖心女子大）

「情報ネットワーク時代に求められる教師の力量」について、1時間の講演があった。2005年に向けて進められている学校の情報化をとりまく諸問題から入り、情報教育に対する理解や情報メディアの活用について話された後、現在開発が進んでいるコンテンツとそれらを利用するためのカリキュラムの構成、などについても話が及んだ。特に、これからの時代に必要となってくる能力については、人の扱うことのできる情報量と情報を用いた問題解決や判断力との関係などをわかりやすく解説された。そして、これらの情報ネットワークを活用する上で教師に求められる力量について、現在研究中の項目を示し、それらの力をつけるためのこれからの教師の姿勢について説明があった。



実践発表

午前から午後にかけて5件の実践発表が行われた。1件目は、横山譲治先生（福島県河東町教育委員会）が地域のイントラネットを国際理解教育に活用した事例について、次に堀部誠先生（福島市立福島第四小学校）が基礎・基本の確実な修得を目指すための情報活用能力の育成について発表



した。午後に入り、岡山県情報教育センターの平松茂先生から岡山県で進められている情報教育のカリキュラムについて報告があった。4件目は、小学校におけるPDAを利用した学習評価システムの報告が津市立瀬田小学校の石原一彦先生からあり、少し先の子どもたちのPDA活用の可能性が示された。最後に、はこだて未来大学の木村健一先生から「地域におけるWebコンテンツの有効活用」について、電子百葉箱を中心とし

た取り組みの報告が行われた。どの発表も学校や地域の実践に基づいたものであり、参加者は熱心に聞き入っていた。

リレー講演「1年目の総合的な学習の時間をどう評価するか」

村川雅弘（鳴門教育大学） 堀田龍也（静岡大学） 木原俊行（大阪市立大学）の各先生がテーマである「1年目の総合的な学習の時間をどう評価するか」についてそれぞれの立場からの考えを示しながら次の登壇者に話をリレーするという形式で講演が行われた。



最初に登壇した村川先生は、「総合的な学習の時間」に関するさまざまな調査から、本来教育で行うべき内容などがこの時間の実施によって明らかになってきていることを具体的に指摘した。例えば、「総合的な学習の時間」の導入に関する調査結果では、「一般教員が創意工夫して授業プランを組み立てる機会が増えた」「教師間の情報交換や連携が強化された」などが、現場からは問題点が指摘されているが、これらは、本来そうあるべきであって、これまでなされていなかったということが明らかになってきたというふうに取り上げられる。同時に、これらの課題を解決しながら真摯に総合的な学習に取り組んでいる学校の児童・生徒は確実に変容し、「学力」を身につけていることを、さまざまな具体的な実践例とともに紹介した。そして、それらの学校における図書館をはじめとする学習環境の変化や、研修内容、そこでの成果や課題を指摘しながら、総合的な学習の時間をどう評価していくかを示した。

次に、堀田先生は、大卒の「総合的な学習の時間」から、特に情報活用に焦点を絞った評価について講演をおこなった。はじめに、校務や授業の中で、また、児童が学習の中で普通にメディアを使った場面を写真などで示しながら、その活動を情報教育という立場からどのように評価すればいいのか、「総合的な学習の時間」でどのように情報教育を取り入れることが可能なのかなどの紹介をした。また、岡山県の小学校の事例を引用し、総合的な学習の時間における情報教育の位置付けについて、地域学習や環境、国際理解などの課題を示しながら説明した。そして、その中で情報手段の利用などの評価の視点を具体的に紹介した。さらに、情報教育をどのように進めるかという簡単な例を実践から分かりやすく説明し、子どもたちが伝えたい内容を持ちながらメディアを使うと、情報活用の実践力が確実に身につくことを紹介した。

最後に、木原先生は、自身の学校指導の経験から、学校間格差の拡大や英語活動の増加、小中連携の台頭などと同時に、「総合的な学習の時間」の解釈の間違いと、現場でのごまかしの実態の報告を行った。これらは、学習指導要領に記載されているねらいの確認が不十分であることや、先生自身の新しい力量獲得の不足が原因ではないかという視点を示した。また、具体的な実践事例を取り上げながら、自己・相互評価の誤解や教師自身の評価の重要性、それらを踏まえた評価の新しい手立ての提案などがあつた。

このあと、会場からの質問にどんどんと応じるという展開が繰り返された。大学院大学で研究中の現場の先生から、「学力との関係について現場の本音を理解した上で話して欲しい。総合をやったために、基礎学力の低下につながらないように、現場で行うべきことは何か。」という質問が出た。これに対して、村川先生は、「総合学習を行うには、先生方の協同的な活動が必要となると同時に、保護者や地域との連携、メディアなどを含めた学習環境の整備、子ども自身の課題の理解、自己目標の確立など、これまでに欠けていたさまざまな問題の解決が必要になってくる。そこに、教育改善のねらいが隠されているのかもしれない。」と答えた。続いて、堀田先生からは「文部科学省では柔軟な対応が可能であると言っている。それぞれの学校が外の風を学校に入れることで学校を変えることが必要である。基礎学力の低下につながらないようにするのは学校が取り組むべき義務であり、しんどいから、忙しいからと言って逃げることではない。」という回答があった。最後に、木原先生からは、「それぞれの学校が必要と考えていることをしなければならぬので、柔軟な基準が総合的な学習の時間に設定されている。学校をとりまく保護者をはじめ、地域の人で構成される地域集団がカリキュラムを共通理解して進めることが求められているのかもしれない。」という説明があった。

リレー講演という形式であったが、会場からさまざまな意見が出され、充実した2時間となった。

(文責：園田学園女子大学 原 克彦)

===== 2003 夏の合宿の予告 =====

来年度の夏の合宿は、現在、以下のような予定で進めています。詳細については、次のニュースレターでお知らせします。

日 時 9月13日(土)午前9時～14日(日)午後15時

場 所 岡山県(場所は未定です)

協 力 岡山大学、岡山県教育工学協議会、教育委員会等

会場を予定している岡山県は、情報教育教材や教育用のコンテンツの開発を始め早くから教育工学に取り組んでいる地域です。また、総合的な学習の時間の先進的な実践校なども擁している地域でもあります。多数の参加者をお待ちしています。

平成14年論文投稿件数と採択率

論文誌編集委員会から、以下のように論文の査読および採録状況について、連絡します。本学会の論文誌は、一般論文誌が年4回、内1回は特集号、英文誌が年1回、ショートレターが年1回で、合計年6回発行しています。年6回ですから、2ヶ月に1回論文誌を発行していることとなります。

2002年1月～12月までの、論文の採択率は、以下の通りです。

- ・一般論文誌 投稿数 41編 採録 13編 採択率 31%
- ・英文号 投稿数 7編 採録 4編 採択率 57%
- ・特集号 投稿数 37編 採録 25編 採択率 67%
- ・ショートレター 投稿数 64編 採録 52編 採択率 81%

1年間のデータなので、まだ信頼性が低いですが、だいたいの傾向はわかると思います。本編集委員会では、以下のように、論文誌の発行を計画していますので、よろしく願いいたします。

1. 論文査読の迅速化

論文の発行をなるべく早くするために、査読期間を短縮したいと思っていますので、ご協力のほど、お願いいたします。

2. ショートレターの論文誌への掲載

ショートレターは論文ではないので、論文誌ではなく、学会誌に掲載していますが、3月1日締め切りのショートレターから、論文誌に掲載します。したがって、査読を厳しくするように、決めています。

論文誌は、学会の顔です。是非多くの論文の投稿をお待ちしています。

| 2002年 | 1月 | | | | 2月 | | | | 3月 | | | | 4月 | | | |
|-------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|
| | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター |
| 投稿数 | | | 8 | 4 | 2 | | 27 | 21 | 4 | 2 | 1 | 39 | 3 | | | |
| 採録 | | | 3 | 3 | 1 | | 20 | 16 | 2 | 2 | 1 | 33 | 1 | | | |
| 返戻 | | | 4 | 1 | 1 | | 6 | 5 | 2 | | | 5 | 2 | | | |
| 著者取下 | | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | |
| 査読中 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 2002年 | 5月 | | | | 6月 | | | | 7月 | | | | 8月 | | | |
|-------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|----|-----|-----|---------|
| | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター |
| 投稿数 | 11 | | | | 2 | 1 | | | 3 | 1 | | | 1 | 1 | | |
| 採録 | 8 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | |
| 返戻 | 3 | | | | 2 | | | | 2 | 1 | | | | | | |
| 著者取下 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 査読中 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | |

| 2002年 | 9月 | | | | 10月 | | | | 11月 | | | | 12月 | | | |
|-------|----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|---------|
| | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター | 一般 | ETR | 特集号 | ショートレター |
| 投稿数 | 2 | 1 | | | 6 | 1 | 1 | | 4 | 1 | | | 3 | | | |
| 採録 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| 返戻 | | 1 | | | 3 | | | | 2 | | | | | | | |
| 著者取下 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 査読中 | 1 | | | | 3 | 1 | | | 2 | 1 | | | 3 | | | |

日本教育工学会第9期第14回理事会議事録

日時：平成14年11月30日(土) 16:00～17:30

会場：(社)日本教育工学振興会会議室(JAPET)

出席者：清水康敬会長、赤堀侃司副会長、伊藤紘二、坂元 昂、菅井勝雄、園屋高志、
竹谷 誠、中山 実、前迫孝憲、山西潤一、吉崎静夫、吉田貞介、小林事務局次長

1. 第9期第13回理事会議事録の承認

・資料1に基づき、異議なくこれを承認した。

2. 会員の移動について

・資料2に基づき、天野卓朗君をはじめ9名の新入会員(正会員5名、学生会員4名)を承認した。また、会員種別の変更1名、不明会員2名も承認した。

3. 各委員会の報告について

(1) 編集委員会

・資料3により、赤堀担当理事から、和文誌、英文誌、ショートレター、特集号とも順調に推移していることが報告された。また、ショートレターは、27巻増刊号より学会誌から論文誌となるため、査読の体制を検討し対応する。さらに、編集委員会運営内規と学会誌の電子化について検討しているとの報告があった。

(2) ニュースレター編集委員会

・竹谷理事より、119号の内容説明と120号の原稿締め切りについての報告があり、了承された。

(3) 出版委員会

・伊藤理事より、教育工学事典のキーワード解説をニュースレターに掲載する原稿についてのお願いと確認があった。

(4) 企画委員会

・山西理事より、秋の産学共同セミナー、冬の合宿研究会、春の特別企画についての報告があった。

(5) 大会企画委員会

・資料4に基づき、吉田理事より、長岡大会の詳細な報告があった。また、園屋理事より、来年の岩手大会についての報告があった。

(6) 顕彰委員会

・清水会長より、研究奨励賞候補者の推薦についての要請があった。

(7) 選挙管理委員会

・資料5に基づき、中山理事より、次期役員候補者の推薦、理事候補者の選出、2003年役員改選の手順についての提案があり、これを承認した。

4. その他

- ・坂元理事より、セミナー、シンポジウム、国際会議の紹介と出席についての依頼があった。
- ・清水会長より、会員名簿作成に関してのデータの確認についての報告があった。
- ・坂元理事より、IT高等教育支援協議会のシンポジウムに参画するか、の提案があった。
- ・次回開催：第9期第15回：平成15年2月1日(土)16:00～18:00(JAPET)

以上

新入会員

(2002年12月1日～2003年2月1日)

■ 正 会 員 9名

綾部 宏明 (アカデミオン)
石原 一彦 (大津市立瀬田小学校)
小棹 理子 (ソニー学園湘北短期大学)
切田 節子 (玉川大学)
小林 仁 (鎌倉女子大学短期大学部)
年森 敦子 (鎌倉女子大学)
平山 静男 (北九州市立若松中学校)
松崎 邦守 (千葉県沼南町立大津ヶ丘中学校)
本山 方子 (奈良女子大学)

■ 准 会 員 2名

國貞 毅 (東京都立羽村養護学校)
當山 しのぶ (琉球大学大学院)

■ 学 生 会 員 7名

錠 勇太郎 (室蘭工業大学大学院)
尾崎 史典 (室蘭工業大学大学院)
木下 由美 (千葉工業大学)
辻 靖彦 (東京工業大学)
比嘉 雅江 (琉球大学大学院)
松田 コリ子 (横浜国立大学)
劉 学軍 (北海道大学大学院)

学会日誌

- 3月15日(土)～16日(日) ワークショップ「学習環境デザインの方法と評価」
京都府相楽郡 CAMP(CSK 大川センター)
- 3月29日(土) 研究会「情報教育における教員研修と授業改革」 (茨城大学)
- 5月31日(土) 研究会「社会的構成主義指向の教育」 (長崎大学)
- 6月 7日(土) 総会・シンポジウム (東工大デジタル多目的ホール)
- 10月11日(土)～12日(日) 第19回全国大会 (岩手県立大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (jet-editor@japet.or.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jet-branch@nime.ac.jp)
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・ニュースレター編集委員会
(jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp)
- その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (jet-office@japet.or.jp)

ニュースレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:松居 辰則, 佐々木 整
拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426-65-1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会ニュースレター No.121

2003年 3月15日 発行人 清水 康敬

発行所 日本教育工学会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階

TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180-0-111042